



開催日 2016年6月4日(土)～5日(日)

開催会場 函館市民会館2階 小ホール
(函館市湯川町1丁目32-1)

大会テーマ

未来を切り拓く PSW ～ここから、はじめよう～

参加費 4,000円(申込不要・当日会場受付で承ります)

【大会内容】

1日目 受付13:30～ 講演14:10～16:00

講演『日本の認知症介護を切り拓く～グループホームへ至った道のり～』

講師:社会福祉法人函館光智会 函館あいの里
理事長 林崎 光弘 氏

座長:社会医療法人函館博栄会 高齢者複合施設 ケアタウン昭里
施設長 越野 之博 氏

2日目 受付9:15～ 演題発表4題9:50～
シンポジウム『高齢化社会とPSW』11:25～

座長 医療法人立青会 なるかわ病院 医療ソーシャルワーカー 山村 哲 氏

シンポジスト 社会医療法人函館博栄会 高齢者複合施設 ケアタウン昭里
主任 満保 俊則 氏

社会福祉法人函館恭北会 函館地域生活支援センター
相談支援専門員 任 書雄 氏

社会福祉法人函館大庚会 特別養護老人ホーム俱有
施設長 三谷 真理 氏

※当日は駐車場の混雑が予想されます。公共交通機関等のご利用にご協力お願い致します。
※時間等の詳細については「北海道精神保健福祉士協会 全道大会 プログラム」をご参照ください。

問い合わせ窓口:医療法人立青会 なるかわ病院 川口・山村
〒041-1112 亀田郡七飯町鳴川4丁目325-1
TEL:(0138)65-7131 FAX:(0138)65-7132

【2016年度 北海道精神保健福祉士協会 全道大会 プログラム】

2016年6月4日(土)

13:30～ 受 付

14:00～ 開会挨拶・オリエンテーション

14:10～ 講 演『日本の認知症介護を切り拓く～グループホームへ至った道のり～』

講 師： 社会福祉法人 函館光智会 函館あいの里
理事長 林崎 光弘 氏

講師プロフィール

(公職)

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 名誉会長

南北海道グループホーム協会 会長

一般社団法人日本認知症ケア学会 代議員

函館市要援護高齢者対策ネットワーク協議会 委員

(略歴)

昭和42年より函館市内の総合病院にて看護職として勤務。その後病院や大型施設での認知症高齢者の処遇に限界を感じ退職。諸外国を巡りグループホームに辿り着く。平成3年、国内初の認知症高齢者専門のグループホーム函館あいの里を開設し、以来グループホームの制度化へ向けて協力する。

(主な著書)

・グループホームケアの理念と技術 ・グループホームの空間設計とケアシステム

・在宅サービス立ち上げ・運営マニュアル

座 長： 社会医療法人 函館博栄会 高齢者複合施設 ケアタウン^{あかり}昭里
施設長 越野 之博 氏

16:00 閉 会

16:15～ 北海道精神保健福祉士協会定時社員総会(協会員のみ)
引き続き 日本精神保健福祉士協会北海道支部定期総会(協会員のみ)

19:00 終 了

2016年6月5日(日)

9:15～ 受 付

9:45～ 開会挨拶

9:50～ 演題発表

『医療観察法通院処遇終了者の現状と課題』（実践報告）

橋 武蔵 氏 （医療法人社団 旭川圭泉会病院）

当院は同法通院処遇対象者を15名終了させてきた。通院処遇中は社会復帰調整官を中心とした手厚い地域支援が行われ、通院処遇終了後は一般精神科医療に移行し、地域支援も継続されてきた。しかし、病識や対象行為に対する内省、クライシスプランの実践度は個々に異なり、医療観察法処遇の効果もあって自主的に医療や福祉を受ける者や精神症状の悪化により非自発的入院を繰り返す者など様々なケースが存在してきた。

医療観察法通院処遇終了者の現状とケースを積み重ねていくことで見えてきた課題を報告する。

『精神障害当事者による講義が学生に与えた影響について

～講義を受けた学生へのアンケート結果から』（調査・研究）

橋本 達志 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

丸子 慎平 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

板垣 実 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

岡本 明広 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

田村 健太郎 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

こころカ・プロダクションの活動の一つに、講演活動がある。福祉系大学の講義を企画していくプロセスで、「学生に向けたアンケートを行い、自分たちの活動を再検討しよう」というメンバーからの発案で調査を行った。今後、精神障害を理解してもらうために、必要と考えられることをメンバーと共に報告する。

『新しい働き方を模索して

～メンバーと職員が一緒に仕事を作り上げる中で～』（実践報告）

田村 健太郎 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

丸子 慎平 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

岡本 明広 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

板垣 実 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

橋本 達志 氏（就労継続支援B型事業所 こころカ・プロダクション）

「メディア系事業所」を標榜して立ち上げ、2年が経過した。私たちは、メンバーと共に、自分たちには何ができるだろうと一緒に悩みながら、仕事を創り、経験を積んできた。その中で徐々に仕事として形が見えている。「仕事とは?」「役割とは?」などをキーワードに「ここプロ」の活動報告と今後の目指す方向性について報告する。

『地域移行支援について考える

～モデル事業からの10年を振り返り見えてきたもの～』（実践報告）

安保 麻衣子 氏（地域生活支援センター・ハート釧路）

およそ10年間にわたり、長期入院を余儀なくされてきている方々との関わりを通し、自分自身の考えや意識にも変化が生じてきている。また実際に支援を受けて地域に退院し、退院後はピアサポーターとして活動されている方へのインタビューを行い当日生の声を届けたい。

11:25～ シンポジウム『高齢化社会とPSW』

12:30～ 閉会挨拶